

林心煩遊

報寺正順

秋季彼岸

結願法要

左記のとおり秋季彼岸会法要をお勤めいたします。皆様お誘いあわせの上賑々しくご参詣ください。

九月二十五日（日）

午後一時より

衆僧総供養読経

おとき（婦人会の皆様の手作りのお食事です）

九月十九日から二十五日までお彼岸です。この間お寺もしくはご自宅での読経供養をいたします。ご希望の方はご連絡ください。

尚、十九日（月・敬老の日）・二十一日（木・秋分の日）・二十四日（土）の三日間は、お寺にお参りの方は、ご参詣になった順にお勤めいたしますので予約は不要です。その他の日は、住職・副住職共に外に出ていることが多いので必ず時間の予約をお願いいたします。

*お寺にご遺骨をお預けの方は期間中必ずお参りください。

暑さ寒さも彼岸まで、とはいうものの、今年の残暑は彼岸を超えて、十月まで続くといまの時点では言われています。東京近辺では、記録的酷暑となると言われていたこの夏、七月はほとんど曇りとたまに雨が降る、夜は二十度を下回る日もあったりで、西日本とは真逆で「冷夏？」と思うような日が続きました。八月に入っても、お盆明けまではさほど暑くならず、現状、日本有数の暑さ地点「練馬」ですら「猛暑日」は二日しかない夏でした。それでも、やはり、この三十度を超えるような日が十月まで続くと聞くと、もう暑いのはいいよお、と、げんなりしてしまいます。地獄はもっと熱いだろ、と、やっぱ、お釈迦さまや親鸞聖人や父や祖母の云うことを聞いて、阿弥陀さんに救ってもらおかな、などという得手勝手なことまで頭に浮かんでしまいました、ダメだこりや、と自分に突っ込んだりしてみたりしています。

さて、お彼岸です。

「人間はいつも一人で風の中を歩いていくのです。しかし、いつか旅も終わる。その終点まで、それぞれ

れの歩きかたで歩いていく。その風のなかで、ときどきすれちがう旅人がいる。手をあげて挨拶したり、ちよつと立ち話をしたり、そしてまた分かれて歩いていく。

〈俱会一処（くえいつしよ）〉

さまざまに生きていても、いつか人は同じ場所で再会する・・・（五木寛之『風の旅人への手紙』より）
俱会一処とは、「仏説阿弥陀経」とうお経に出てくるお浄土のありようです。「俱（とも）に一処（いつしよ）に会（え）する。」「一処」とはお浄土（彼岸）のこと。お浄土での再会が約束されているということとです。

人生の中で出会われて、いつしか別々の道を歩まれて、会うことができなくなった、そんな方を思いだしてみましよう。その方との再会を楽しみに、今の歩みをますます大事に旅してみましよう。

お浄土は帰る（還る）場所です。「ただいま」と。帰る場所があるから旅は楽しめるんです。お浄土（彼岸）を思い、再会を思い、いよいよ旅路を大事に楽しもう！、と思う時間、それがお彼岸です。

いま、この原稿を書いている時点で、日本中はリオのオリンピックで浮かれまくっている。卓球、レスリング、柔道、陸上、バドミントン etc... 本場に各競技の選手たちは頑張って、喜びと悔しさの涙を流し、我々に努力と慈しみと自身を受け入れることの素晴らしさを見せてくれている。素直に素晴らしいと思う。これは、みんなが好んで見る事実だ。報道が好んで流している事実の一部だ。

その裏で、いま、この国では沖縄の小さな島、人口200人にも満たない島に、政府が米国と約束したからといって、ヘリパッド（ヘリコプターの離着陸場）を強制的に建設している。200人にも満たない島民しかいない島に、日本中から集められた警察官がある日1000人以上機動隊員として上陸し、反対住民と支援者たちを強制的に排除している。東京の警視庁からも沖縄県の住民を苦しめるために警察官が派遣されている。彼らは一様に無表情だと聞く。何もしゃべらないという。表情を見せるときは薄ら笑いの時だけだと。感情を全て殺して、ただ上官の、政府の云うがままに動かされている彼らもまた被害者なのかもしれない。

沖縄県に対して政府は、「米軍基地に反対するなら、沖縄への補助金減額するからね」と脅している。

こうした一連の沖縄への政府の嫌がらせ、国による侵略行為はあまりみんなが知っていたがらない事実のようだ。そして、報道は率先して隠したがっているのも事実である。

私が、喜んで浮かれている陰で泣いている人が、もがき苦しんでいる人がいるということを知ることが大事である。

お彼岸を前にしてお盆の話でなんだが、お盆のもとになった経典「盂蘭盆経」で、お釈迦さまの弟子モクレンの母親は死んでから餓鬼の世界に落ちていったという。何も社会的には悪いこともしていないのに。何故か。それは、モクレンを育てるのに、自分の子供に精いっぱい、そのために他者が泣いているということを知ろうともしなかつたから、というのがその一因だ。他人を傷つけずには人間は生きていけない。命をいただかないと我々は生きられない。問題は、自分がここにあることがどれだけの犠牲と育みと支えによってあるかを知ろうとすらない姿勢だろう。マザーテレサが言ったとされている言葉に「愛の反対は憎しみではなく無関心」という言葉がある（実際はエリ・ヴィーゼルという方の言葉だとも言われている）。無関心が私たちの闇を作っている。

光の当たっているところばかりではなく、影もすっかり見えないければ、本当の平和などいつまでたつても訪れない。

副住職

追記 「安全保障法制」が成立して、日本はいよいよ軍事大国の仲間入りをなしました。みなさんはテロや近隣諸国からの「恐怖」というものは払しょくされましたか？わたしは、それ以前はさほど感じていませんでしたが、いよいよこの国は危険な国になったなど、恐怖を日々つららせています。

殺そうと争闘する人々を見よ。武器を執って打とうとしたことから恐怖が生じたのである。（お釈迦さまのことば）

武器にはもれなく恐怖がつかってきます。

順正寺の定例行事

聞法会 毎月2日 午後7時より2時間ほど

現在、鉛筆写経と法話、座談会をやっています

歎異抄を読み聞かす会（グリーンフケアの会）

毎月5日 午後7時より2時間ほど

勉強会ではありません。歎異抄の考え方を参考に、自分を見つめる会です。

白色白光の会（婦人会） 毎月第2木曜日

お経の練習と法話、そして、茶話会です。

浄土真宗はじめて講座

二、四、六、十、十二月の第2土曜日

午後2時より5時まで

仏像！描くぞう！

毎月第2水曜日午後7時30分からと毎月最後の日曜日の午後4時から。いずれも1時間。

詳細（申し込みや参加費等）は、電話でお気軽にお尋ねください。皆さんのご参加をお待ちしています。

◎ 住職からのお願い

今、東京では火葬場が不足しています。

皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。そのため、ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることがあります。

葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。

そこは相見互い、どうかご寛恕くださいますようお願い申し上げます。

照久山 順正寺

177-0041 東京都練馬区石神井町3-17-4

TEL 03(3996)2064

FAX 03(3996)2075